

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

82

3歳児保育等事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
施策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
取組方針	2	子供が健やかに育つことのできる環境づくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		幼稚園費	
	目		幼稚園管理費	
	大事業		幼稚園管理事業	
中事業		3歳児保育等事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	学校教育課	西谷 宣昭 435-1196
事業実施の根拠法令			関連課			

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	障害のある園児等が在籍する園や多人数の学級等公立幼稚園の教育環境整備及び質の改善を図るため。		①3歳児保育等事業・・・障害のある園児が多く在籍する園や20人を超える3歳児学級に、幼稚園教員免許を有する保育補助員を配置する事業 ②特別支援教育支援補助員配置事業・・・個別の支援が必要な園児が在籍する園に、特別支援教育支援補助員(幼稚園)を配置する事業			
事業内容		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
		公立11園に、保育補助員及び幼稚園特別支援教育補助員を配置する。	公立11園に、保育補助員及び特別支援教育支援補助員(幼稚園)を配置する。	公立11園に、保育補助員及び特別支援教育支援補助員(幼稚園)を配置する。	公立11園に、保育補助員及び特別支援教育支援補助員(幼稚園)を配置する。	公立11園に、保育補助員及び特別支援教育支援補助員(幼稚園)を配置する。

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伸び率(%)	△100%	△100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
人件費	正規職員	7,803	7,724	9,619	9,619	9,424	9,424	9,424	0	9,424
	正規職員以外	57,686	57,643	59,685	59,685	137	47,769	40,865	0	40,865
	小計	65,489	65,367	69,304	69,304	9,561	57,193	50,289	0	50,289
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	153	0	162	0	169	0	267	0	0	0
一般財源(税等)	△153	0	△162	0	△169	0	△267	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.98	0.97	1.24	1.24	1.26	1.26	1.26	0.00	1.26
	正規職員以外	26.62	26.60	26.06	26.06	0.06	21.06	18.01	0.00	18.01
主な予算内訳	会計年度任用職員報酬 47541千円等									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
保育補助教員配置数		人	目標値	25	25	25	22	
			実績値	25	24	25		
			達成度(%)	100%	96%	100%	%	%
配置した園の数		園	目標値	11	11	11	11	11
			実績値	11	10	9		
			達成度(%)	100%	91%	82%	%	%
配置により保育が充実した園		園	目標値	11	10	9		
			実績値	11	10	9		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

#### 4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	保育補助員を通年で計画的に配置することにより、障害があると思われる園児への対応・各園の実情に応じた教育内容の充実・延長保育等、地域のニーズを捉えた魅力ある幼稚園づくりに寄与した。
見直し・改善内容	22人の保育補助のうち、「20人を超える3歳児学級」に対する保育補助の配置は減少しているが、障害があると思われる園児の割合が、年々、増加傾向にあり、教育現場における特別支援教育の充実がさらに求められている。併せて、障害者差別解消法ができ、園児個々のニーズにあった合理的配慮が必要であり、障害のある園児や学級の補助として保育補助員を要望する園が増えてきている。 今後、人件費コストの増加が見込まれるため、要望と実態に即した予算要求と職員の配置が必要である。